

第4回 鶴岡市総合計画審議会（会議概要）

- 日 時 平成30年11月29日(月) 午前10時から
- 会 場 東京第一ホテル鶴岡 鳳凰の間
- 委員発言の概要

第1編 基本構想(素案) 第2 めざす都市像とまちづくりの基本方針 について

【1 めざす都市像 について】

- ・「ほんとうの豊かさ」とは何なのか、説明を付ける必要があるのではないか。物理的なものなのか、精神的なものなのか、みんなでどう追求していくのか。
- ・「ほんとうの豊かさ」とは何なのかということも含めて「追求」していくという意味合いでは、こうした表現でもよいのではないか。
- ・「ほんとうの豊かさ」は、人によって違うものだと思うが、いろいろな資源を有する鶴岡では、これがふさわしいのではないか。

【2 まちづくりの基本方針 について】

- ・2つ目の「市民と行政が力を合わせて・・・」については、「市民」と「行政」だけではなく、「企業」が入ってくるべきではないか。企業があって働くことで、生活ができ、経済循環が生まれる。市民と行政だけが力を合わせれば、人口減少社会に向き合って、命が輝くまちを築けるのか。産学官がもっと一緒になってやるということが大切なのではないか。
- ・「市民」「行政」「企業」とするのは大賛成である。
- ・市民が読んだときにわかりやすいという観点で、「企業」を入れてもいいのではないか。
- ・「市民」という言葉には、「企業市民」も含まれるという考え方で企画専門委員会で議論されてきたものと思う。「官民」といった場合の「民」には、企業も入るものではないか。
- ・3つ目の「資源の循環と多様な交流を促進し、・・・」については、4つの異質な要素が併記されているように感じられ、散漫な印象を受ける。まちづくりの基本方針を3つに絞ることに拘るのであれば、少し要素を引き算して減らしていてもいいのではないか。あるいは3つに拘らず、もっと項目を起こす形でもいいのではないか。

【3 キャッチフレーズの設定(仮) について】

- ・斬新で面白いと思うが、「ここで、暮らしたい」としているところを、「ここに、暮らしたい」として、意志を明確にするような形にした方が、よりインパクトが出て面白いのではないか。
- ・どこかの部分に特化していく必要があり、鶴岡の一次産業や食というものが比較的優位であることから、それが前面にでるようということ設定されたものだと思う。
- ・「おいしい」という言葉は、「好ましい」「優れている」という意味合いもある言葉であり、非常にいい言葉であると思う。テレビコマーシャルに流れるようないいキャッチフレーズになって

いるのではないかと。

- ・すべてを言い表していると思う。
- ・「おいしい」という言葉は、食文化の発信も意味すると思う。このキャッチフレーズを進めて欲しい。

第1編 基本構想(素案) 第3 施策の大綱 について

- ・「2 福祉と医療」においては、諸悪の根源とも言える社会的孤立の解消や予防という観点も入れるべきではないか。また、本文中の障害者の地域自立支援の段落について、「障害者の地域自立支援については、」と限定しながらも、その後の文章では、「障害のある人もない人も互いに支え合いいきいきと暮らすことができることを目指す」と、まちづくりの話と取れるような非常に広い分野の話となっていて、障害者の自立支援の話とはなっていない。もう少し文章をブラッシュアップする必要があると思う。
- ・「4 農・林・水産業」においては、交流人口による地域の活性化とあるが、交流人口は何を意味するのか本文中ではわかりにくく、基本計画と合わせて説明して欲しいと思う。
- ・「5 商工と観光」の記述を読むと、綺麗な文言が並んでいて未来への希望が出てくる反面、これからの10年間は、過疎化の進行の影響を大きく受けることが想定され、これに対する現状認識の記載が少ないのは片手落ちではないか。これからの10年間でこうしますと言うのはいいと思うが、今までの10年間の商工観光は沈滞化してきた面があるのではないかと思う。そうした認識をどこに盛り込んだ上で、次の方策を考えていくかという視点が少し欠けているように感じる。「成長性の高い企業の集積を図り、地域外からの企業の立地と地域内の企業・事業所の設備等の投資を促進します。」という記述について、サイエンスパークなどは成功していると思うが、それ以外は全体的な底上げが進んでいないと感じる。既存の業種や業態が個別に見直しや技術革新を図らなければならない。それに対して行政はどう対応していくのか。現状をもっと詳しく把握することが必要で、現状に対する課題意識が少し欠けているのではないかと。
- ・美辞麗句が並んでいるが、これからの10年間でどう分析し、どう対応していくのか。認識が甘く、緊迫感に乏しいように感じる。
- ・商工観光分野における現状認識の記載については、「計画の背景・課題」の章に記述を足していけばよいのではないかと。
- ・人口をいかに鶴岡に流入させるかという視点が足りないのではないかと。流出するのを阻止するよりも、入ってくる人を増やすという意味での「豊かさ」という考え方も必要だと思う。ほんとうの豊かさの追求に参加したいという人を増やすことが重要ではないかと。

第2編 基本計画(素案) 第1 基本計画の内容 について

- ・公立保育園の施設整備が施策としてあるが、公立保育園にどのような機能や役割を持たせるのか、イメージが明らかになるように書いていくべきではないか。
- ・放課後児童クラブについては、利用者の増加によりかなり過密となっている現状があり、子どもが居ることができるスペースが広がるような施策を行ってほしい。

- ・老朽化した学校給食センターの改築も施策としてあるが、大量生産だからこういうことが必要になる。昔のように学校ごとに調理するようにすればよいのではないか。イタリアなどでは、地元の女性たちが地元の食材を中心として学校給食を作っている。農業の面から見ても、大量生産、大量消費の社会では、小さな農家はやっていけなくなる。地理的表示(G I)制度の推進も重要である。

第2編 基本計画(素案) 第2 未来創造のプロジェクトの設定 について

- ・目的と手段という考え方に立ったとき、未来創造のプロジェクトは手段にあたると思うが、目的は何なのか。目的をはっきりさせないと、後に迷いが出たり、ずれていく心配があるのではないか。このプロジェクトは、まちづくりの基本方針のどの部分に効果が表れるものなのか、明確にしていく必要があるのではないか。プロジェクト自体が目的となるべきではなく、手段が目的になる懸念がないか。
- ・部署横断的な取組が必要という意識は、事務局から内発的に出てきたものでもあり、縦割り行政に風穴を開けるという意味でも画期的であると思う。ただ、書き方が壮大になっている面もあり、10年間で本当にやっていけるのだろうかという思いもある。記載の成熟度を上げていく必要がある。
- ・未来創造のプロジェクトと基本計画上の施策は意味合いが違っていると考える。プロジェクトに書かれている具体的な内容や、実施体制がより重要になってくる。ぜひ優先順位をつけながら、インパクトのある取組を進めていただきたい。
- ・「全世代全対象型地域包括ケア推進プロジェクト」において、「地域医療を担当する部署」を新たに設置することは画期的なことだが、荘内病院に対することに特化した部署にするのではなく、市民の医療へのアクセスをデザインする部署であるべきだ。
- ・「輝く女性活躍推進プロジェクト」が設定され、計画に男女共同参画が盛り込まれることはいいことだと思う。一方、「女性」と銘打つことによって逆差別にあたらないか。男女共同参画は世代によって意見が異なる分野であり、男女共同参画という言い方にさえ違和感があるという世代もある。世代によって参加意識が違う。
- ・LGBTのような観点もある中で、女性という言葉には配慮が必要だと思う。
- ・いわゆる女性活躍推進法の制定もあり、働くこと、活躍することを望んでいる女性の活動を推進しようという社会の動きがある。市としても女性だけを全般的に持ち上げようということではなく、こうした分野に光をあてていくということだと思う。
- ・企業では多くの女性が働いているが、放課後から女性の退勤時間まで子どもを預かってくれるところが増えれば、女性は働きやすい。
- ・未来創造プロジェクトにSDGsが盛り込まれることはよいことで、すべての計画が実行できればSDGsの目標の達成につながると思う。

基本計画編における成果指標について

- ・生産年齢人口の減少が深刻であり、これに対してどのような対策を練るのか、漠然としか表現さ

れていない。何を目的として進むのか、もっとはっきりと出すべきではないか。それに対する成果を見るならばいいと思うが、いま設定されている成果指標では正しく表されてこないのではないか。

- ・人口が減少するのはなぜか。インパクトがある要因は、地域にお金があるか、ないかではないのか。そうした観点から見て、計画上で産業をもっと重視するべきではないのか。全体的に玉虫色になっており、成果指標という数字が出てきたのは一つ面白いと思うが、インパクトがない。このまま行けば、山形県は全国でも3番目の人口減少県になるという予測もある中で、人口減少対策に対するインパクトがない。
- ・企業はお金がなければやっていけない。企業と行政が寄り添うべきだ。例えばインバウンド観光などで、この地域にどのくらいのお金を持って来れるものなのか、具体的に表せるものもあるのではないか。

その他

- ・求人倍率が高く、求人を出しても若者が来ない。企業にとって、鶴岡で操業していくことが困難になっていく。鶴岡では労働集約的な産業がまだまだ多い中で、次の10年では企業が流出していく懸念がある。小売業では、事業承継者がなく廃業するケースも非常に多い。人材がいなくなることで、企業が成り立たなくなるということが非常に懸念される。
- ・この計画では、「多様な」という言葉が多く出てくる。つまり、キーワードになる言葉なのではないか。鶴岡には様々な人や物があるということを前面に出すような見せ方ができないものか。
- ・少子化対策、子育て支援が掲げられているが、子どもを出産できるところが少ない。子育て以前に産むことへの不安を取り除いてもらえるようにサービスの充実を図って欲しい。